



高校生が取り組む地域連携活動

わたなべ みつる
渡邊 満 (友の会会員)

徳島県立つるぎ高校で、機械科の教員を務めております、渡邊と申します。つるぎ高校の生徒が地域と連携して取り組んだ成果について知っていただきたく、この場をお借りして紹介します。

吉野川を望む国道192号線沿いに位置する道の駅「貞光ゆうゆう館」の見事な桜並木は、毎年春にそこに訪れる観光客を楽しませてくれます。貞光工業高校（現つるぎ高校）が「巨樹の里」と記した看板を製作・設置し、そのキャッチフレーズで道行く人々につるぎ町をアピールするお手伝いをしてきました（図1）。



図1 貞光ゆうゆう館の桜並木

しかし、長年の風雨にさらされて看板表面の腐食や劣化が進み、LED照明も正常に作動せず、文字も読めなくなっていました。そこで、つるぎ町からつるぎ高校に対して、桜並木を飾る看板を更新してほしいとの依頼があり、つるぎ高校機械科の生徒達の力で看板製作を実施す

ることになりました。現地調査をしたところ、既設の看板は木製で基板本体が腐食し、表面の塗料も剥がれて原形をとどめていませんでした（図2）。



図2 劣化した看板

看板の更新を検討した結果、長期にわたりメンテナンスフリーで設置できる看板を目指しました。看板には長期間の設置に耐えられるよう、腐食に強いアルミ基板を使用することに決定しました。また、夜間の視認性を向上させるために設置されていたLED照明は、防水処理が不完全で大半が点灯しない状態だったため、LEDを廃止することにしました。

「貞光ゆうゆう館」では、新しいアイデアを盛り込んだ自由な発想の看板を希望していたので、文字や看板の色などを刷新することを検討しました。その結果、「つるぎ町貞光」と「桜」を強調したいとの意見を取り入れることで「貞光桜道」の4文字を一文字ずつ新しい看板にすることに決定しました。そして、書体は視認性が良く、堅苦しい感じを受けない「悠々ゴシック体」で文字を書くことにしました。また、「つるぎ町の空を背景にしたい」というアイデアにグループの意見がまとまり、看板の背景色を青

色にし、文字を空に浮かぶ雲の白に見立てたデザインにすることに決定しました。さらに、訪れた人たちに咲き誇る桜の花を通年で楽しんでもらいたいという意見もあったため、「桜」の看板の背景は桜色に設定しました。アルミ基板に背景色を着色し、基板に文字の通りに切り抜いた型紙を貼り付け、文字を白色塗料で塗装しました。用いた塗料は通常よりも耐候性に優れた油性塗料です。図3は完成間近の「桜」の看板です。



図3 塗装作業の様子

アルミ基板は、厚さが2mmなので、この看板を元の場所に設置しても、風で簡単に壊れてしまうと考えられました。そこで、基板をフレームで補強し、完成させました。

完成した看板を遠くから確認した結果、日中の視認性に問題なく、かつ人目を引く魅力的な看板に仕上がっていました。作り上げた生徒達も誇らしげに見えます（図4）。



図4 完成した看板

この看板の製作は、「貞光ゆうゆう館」が、キリンビール株式会社による「晴れ風 ACTION（桜の保全活動）」の助成金を得たことで取り組むことができました。ここにお礼を申し上げます。また、課題に精一杯取り組んでくれた生徒達にも感謝しています。

完成した看板は「貞光ゆうゆう館」が桜並木に設置してくれています。「貞光ゆうゆう館」には、博物館の歴史散歩などの普及行事でも足を運ぶ機会があると思いますので、お立ち寄りの際は是非ご覧いただければと思います。

友の会行事報告

ひょうたん島クルーズと

しろやまれきしさんぽ
城山歴史散歩

○日 時 令和7年10月18日(土)

13:30 ~ 16:00

○場 所 徳島市

○担 当 結城孝典(友の会会長)

小林篤正(博物館学芸員)

大塩啓一郎(博物館学芸員)

丸山直生(友の会事務局)

○参加者 11名

徳島市を流れる新町川・助任川のクルーズ船に乗って、水上からの景観を見学しました。川面を渡る風を感じながら、普段とは異なる視点で市街地を眺めました。その後、徳島城跡がある城山を訪れました。徳島城本丸の石垣や東二の丸(天守跡)を歩いて巡り、城の歴史や当時の様子について説明を受けました。特に、現在も残る立派な石垣からは、徳島城の規模の大きさを感じることができました。また、人類学者・考古学者として知られる鳥居龍蔵や城山貝塚についての解説もあり、徳島の歴史や文化について理解を深めることができました。



クルーズ船上にて

この行事を通して、川と山という二つの視点から徳島の魅力を知ることができ、郷土への関心を高める貴重な機会となりました。(丸山直生)

voice 参加者の声

くわうち たかし
●桑内 隆さん

以前から、ひょうたん島クルーズ船に乗ってみたいと思っていたので、念願が叶いました。見慣れたはずの街並みや景色が、川から眺めるといつもと違って見えたので、面白かったです。城山へは何度も行っていますが、学芸員さんの説明を聞きながら歩くのは初めてでした。お城の天守閣は山の頂上にあるイメージだったので、徳島城の天守が少し下がった



徳島城の天守跡

東二の丸にあったという話が意外でした。また、石垣のことも、実地で説明をしていただけたので、よくわかりました。

●Kさん

説明がとてもわかりやすかったです。友の会には魅力的な行事があるので、いつも参加したいと思っていましたが、現地までの交通手段がないため、参加できておりませんでした。念願かなってこの行事に参加できて嬉しかったです。



集合写真

友の会行事報告

化石をさがそう

- 日 時 令和8年2月21日(土)
13:00 ~ 16:00
- 場 所 実習室・野外
- 担 当 中村由香 (友の会役員)
辻野泰之 (博物館学芸員)
中尾賢一 (博物館学芸員)
丸山直生 (友の会事務局)
- 参加者 33名

参加者多数のため、2班の交代制で行いました。はじめに、使用する岩石は恐竜化石含有層(ボーンベッド)の岩石であることや化石さがしのコツの説明があり、保護メガネ・軍手を着

用し、安全面に配慮してスタート。ハンマーの音が響き渡り、発掘現場のような雰囲気になりました。参加者は岩石の割れ目を慎重に観察しながら、「何か出てきた!」「化石かな?」と夢中で化石をさがしました。魚のうろこをはじめ、貝や植物の化石が次々と発見されました。そのたびに歓声が上がり、太古の生き物の痕跡に触れる喜びを味わいました。(丸山直生)

Voic^e 参加者の声

●^{たけ ち あき よ}武智明代さん

ひと割りするごとにルーペで表面をじっくり観察しました。残念ながら恐竜化石は発見できませんでしたが、植物の化石を発見することができました。豆粒のような小さい化石でしたが、1億3000万年前の地層から出てきたと思うと、とても嬉しい気持ちになりました。また、他の参加者が発見した「魚のうろこ」の化石をルーペで観察させていただくことができ、充実した時間でした。

●^{さかもと いつき}坂本 樹さん

樹とパパとママで、「化石をさがそう」に行きました。ハンマーとたがねで石をわりました。貝の化石をみつけたので、たのしかったです。



化石をさがすようす



見つかった化石を観察するようす

●^{すがわらはる か}菅原晴香さん

魚のうろこの化石を見つけた方がおられましたので、「私も見つけるぞ!」とはりきって探してみると…脊椎動物の化石こそ見つけれなかったものの、きれいな巻貝の化石が見つかりました!自分が見つけた化石の中では、かなり状態のよい化石なので満足しております。次こそは、脊椎動物の化石も見つけたいです。

●Nさん

初めての友の会行事でした。職員の皆様が子どもたちに寄り添って下さり、感謝しております。息子が化石を発見し、心のこもった賞状までご用意いただき、感激しました。子どもは「すごく楽しかった!これからも楽しみ」と話しており、賞状は額に入れて大切に飾っています。博物館の魅力と学びの深さを実感できる素晴らしい体験でした。

●^{さわの せいじ}沢野誠司さん・^{こうだい}航大さん

今回で3回目の参加になります。回数を重ねても、石を割ってみるまで中がどうなっているか分からないため、毎回ワクワクしながら取り組んでいます。ハンマーで石を割る瞬間の緊張感と、もしかしたら、という期待感は、何度体験しても楽しいものです。身近な場所でこのような体験ができることをうれしく思います。



集合写真



むろと廃校水族館

友の会行事報告

室戸岬めぐりバス旅行

- 日 時 令和8年3月15日(日)
6:30 ~ 19:30
- 場 所 高知県室戸市
- 担 当 幸坂敏行 (友の会役員)
大杉洋子 (友の会役員)
中尾賢一 (博物館学芸員)
長谷川賢二 (博物館学芸員)
丸山直生 (友の会事務局)
- 参加者 36名

廃校の校舎やプールを活用したことが話題の「むろと廃校水族館」では、様々な海の生きもののとの出会いがありました。どこか懐かしい教室で、給食(昼食)を食べたり、累計3万個を売り上げた大人気の「くじ引き」(景品はブリ・サバ・シュモクザメのぬいぐるみ)でワクワク体験をしたりして楽しみました。旅の後半は、現地ガイドの案内による室戸ジオパークの散策と、空海が悟りを得たと伝わる聖地・御厨人窟(みくろど)へ訪れました。太平洋を望む雄大な景観の中で、四国の深遠な歴史を体感しました。(丸山直生)

Voic^e 参加者の声

●福田富紀代さん

訪れたいと思っていた廃校水族館へ行くことができました。見せ方のアイデアに感心し、おいしい給食にも大満足。室戸岬が今も隆起し続けていることを知ってびっくり。1600万年前の地層(タービダイト)にふれ、生きている大地を目の当たりにできたことに感動しました。学芸員さんの解説もわかりやすく、これぞ博物館友の会ならではの!!

●中岡加奈子さん

家族5人(子ども3人)で参加しました。廃校水族館は、プールに様々な魚や亀がおり、探すのが楽しかったです!マンボウはめずらしかったので、写真をたくさんとりました。初め



室戸岬のタービダイトを観察するようす



アコウの木

てバスツアーに参加しましたが、とっても楽しく有意義な1日でした。その夜、子ども達は、水族館で買ったぬいぐるみを抱っこしたり、枕にしたりして眠りました。

●^{たなか せつこ}田中節子さん

廃校水族館には、AEDの収容ボックスを活用した水槽があり、まるで金魚がAEDの中を泳いでいるように見えて、おどろきました。教室での昼食もおいしかったです。

室戸岬のアコウは、徳島県のものより^{きこん}気根が大きかったです。会員の^{しんぼく}親睦も深まりました。

●^{くわうち たかし}桑内 隆さん

室戸岬へ行きたいと思っていました。その念願が叶いました。荒波が岩に打ちつける様子は、徳島では見たことがないほどの激しさで、壮観でした。水族館も、ゆっくり見られて満足でした。

●Nさん

廃校水族館は、跳び箱や黒板などを活かした展示が面白く、懐かしさを感じながら夢中になりました。室戸岬では、大自然の迫力に圧倒され、「私たちはこの地球に生きているのだ」と感じました。御厨人窟（みくろど）では、歴史やロマンを感じるひとときを過ごせました。親子で貴重な体験ができました。



御厨人窟（みくろど）

●^{ひらお じゅんこ}平尾 順子さん

初めてのむろと廃校水族館！学校の設備を利用し、漁師さんの協力で集められた魚たち。「くすっ」と笑ってしまうユーモアのある展示解説。「ムロト春のブリまつり」と教室の机で食べた豪華な「お刺身弁当」などなど。時間がたつのも忘れるほどでした。魚だけでなく室戸への「愛」も堪能できる素敵な水族館でした。また行きたいです。



集合写真



左のQRコードをスマートフォンのカメラ等で読み取ることで、室戸岬の岩礁に打ち寄せる荒波の動画をご覧いただけます。

報 告

令和 8 年度総会

令和 8 年度の友の会総会を、4 月 29 日 (水・祝) 14 時 15 分より博物館 3 階講座室にて開催しました。

議事につきましては、令和 7 年度事業報告・決算報告、監査報告、役員改選、令和 8 年度事業計画・予算について審議した結果、すべて承認されました。

1. 令和 8 年度友の会行事

(1) 香川県高松市の城めぐりバス旅行 (終了)

実施日：令和 8 年 7 月 5 日 (日)

場 所：香川県 高松市

(2) 夜の文化の森たんけん (終了)

実施日：令和 8 年 7 月 25 日 (土)

場 所：文化の森総合公園

(3) 淡路島めぐりバス旅行

実施日：令和 8 年 10 月 10 日 (土)

場 所：兵庫県 南あわじ市

(4) おふだ (弘法大師の御影札) をしらべよう

実施日：令和 9 年 1 月 24 日 (日)

場 所：博物館

(5) たんけん三好ジオパーク

実施日：令和 9 年 2 月 13 日 (土)

場 所：三好市

(6) 化石をさがそう！

実施日：令和 9 年 3 月 7 日 (日)

場 所：兵庫県 南あわじ市

※状況により、行事の日程を変更したり、中止したりすることがあります。

2. 広報活動

博物館広報印刷物 (月別催し物案内、企画展チラシ、博物館ニュース、文化の森から 等) を提供します。

3. 図録の販売

- ・図録『まぼろしの漆器 阿波の半田塗』の印刷・販売をします (販売中)。
- ・図録『シェルズ 貝と貝化石からさぐる地球の歴史・環境』の印刷・販売をします (販売中)。
- ・図録『日本人類学のパイオニア 坪井正五郎』の印刷・販売をします。
- ・図録『新編 みんなで学ぼう鳥居龍蔵』の印刷・販売をします (販売中)。

4. 友の会会報の原稿募集及び発行・配布

会報「アワーミュージアム」No. 78・79 の発行・配布をします。

5. 会員募集

- (1) 来館者に案内チラシを配布します。
- (2) 博物館普及行事において、参加者に友の会の案内を行います。

6. 友の会グッズの販売

ポストカード、クリアファイル、缶バッジの販売をします。

7. 令和 8 年度 友の会役員

会 長：結城孝典

副会長：本田壮一、幸坂敏行、戸川美史 (館長)

幹 事：行成正昭、大杉洋子、坂井なつ、

香川周大

監 査：石尾和仁、中村由香

事務局長：中澤晴子 (副館長)

書 記：庄武憲子 (課長)、茨木 靖 (課長)、

近藤 玲 (課長補佐)、丸山直生 (係

長)、佐々木奏美 (係長)、長谷川賢

二 (学芸員)、鈴木佑弥 (学芸員)、大

塩啓一郎 (学芸員)

新スタッフ紹介

●近藤 玲 (考古担当)

4月に考古担当学芸員として着任しました近藤玲と申します。出身は兵庫県ですが、徳島県に住んで既に32年が過ぎてしまいました。すっかり徳島人です。自然豊かで、食べ物も美味しく住みやすい徳島県で、子育ても終わり、憧れの博物館に勤務できて、非常にうれしく思っています。

私の専門は考古学で、とくに弥生時代について研究を行ってきました。なかでも、木製品などの遺物に含まれる炭素量から年代を割り出す炭素14年代法を使った集落研究などを得意としております。弥生時代終わりの、邪馬台国の候補地の一つである奈良県桜井市の纏向遺跡から出土した桃の種の年代測定を行い、卑弥呼が生きていたかもしれない年代が、紀元後2世紀中頃から4世紀はじめになるという分析結果を得ました。さて、邪馬台国はどこにあったのでしょうか？など、思いついた疑問を皆さんと楽しく議論できればと思っています。



弥生時代だけでなく、考古学全般の質問もお待ちしております。どうぞよろしくお願いいたします。

●佐々木奏美 (企画担当 係長)

本年4月に企画担当として着任いたしました佐々木奏美と申します。下の写真に矢印で示した紫水晶が誕生石の2月生まれです。昨年度までは徳島市の小学校で教員をしておりました。図画工作科を専門としており、子どもが「これが好き！」「こうしたい！」という自分の思いをもち、「もっとこうしたい！」とその思いを更新しながらつくり続けるための支援について、研究してきました。

自分の思いをもち、それを更新しながら探究を続けていくことは、図画工作科に限らず、人文科学や自然科学など、様々な分野について生涯にわたって学び続け、人生を豊かにすることにつながると考えています。博物館や友の会が、「好きなもの・人・こと」に出会い、人生を豊かにしていく場になるように、私自身も皆様と一緒に学ばせていただきながら取り組んで参ります。よろしくお願いいたします。



アワーミュージアム 第78号

2026年8月31日発行 : 徳島県立博物館友の会
〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内
TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197 E-mail: mus-tomo@bunmori.tokushima.jp